



ハシケイ

5^m

手をのばせばすぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

VOL. 18

FEATURE

歴史学者
熊倉功夫 さん
株式会社アドナース
鎌田智広 さん

株式会社 光清
下川和人 さん

社会福祉法人 成望館
四辻仁美 さん

COVER ART OF HANKEI5m

今号の表紙アート



洛西ふれあいの里授産園 大柳憲一さんの作品

今号の表紙アートは、京都市西京区にある洛西ふれあいの里授産園に通う、大柳憲一さんの作品です。

目に飛び込んでくるビビッドな赤色と黄色。よく見るとその中に、たくさん数字が描かれています。この鮮やかな配色や羅列された数字は、大柳さんが幼い頃によく乗っていた電車の色や車両番号にインスピレーションを受けたものだといいます。電車に乗ってお出かけをするのが大好きだった大柳さんの思い出が、作品の中に詰まっています。

子どもの頃から自宅で絵を描くのが好きだった大柳さんは、作品づくりに夢中になると、明け方近くまで描き続けることもあったそう。現在は主に、平日に通う洛西ふれあいの里授産園のアトリエで作品を作り続けています。キャンバスやルーズリーフ、コピー用紙、木箱からかまぼこの板まで、描く素材はさまざま。納得がいくまで何度も試行錯誤を重ねて、一つの作品ができあがります。

このたび、5月27日(水)から8月16日(日)まで、art space co-jinで大柳憲一さんの個展「Countless Count / 数えきれないほどの数」が開催。幼少期から現在に至るまで、数字をモチーフに大柳さんが創作してきた120点を超える作品が展示されています。数えきれないほどの数の迫力を、ぜひご覧ください。(画像提供:art space co-jin)

art space co-jin
https://co-jin.jp/



ハンケイ 5^m vol.18

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

CONTENTS

表2…………… 車いすレンタル事業が
ハンケイ5m ショップでスタート

FEATURE 1

02…………… 国立民族学博物館名誉教授
MIHO MUSEUM 館長

熊倉功夫さん

株式会社アドナース

鎌田智広さん

FEATURE 2

06…………… 社会福祉法人 成望館
サービス管理責任者・相談支援専門員

四辻仁美さん

FEATURE 3

08…………… 株式会社 光清
専務取締役

下川和人さん

10…………… 俊朗の映画話
薬剤師 DJ の音楽論

11…………… ホホホのすすめ
人形つかいパペの話

12…………… PICK UP NEWS
私が半径5m で見つけたおすすめスイーツ

13…………… ハンケイ 5m vol.18 発行にあたり
RECOMMENDED CINEMA

四条烏丸から広がる「心のバリアフリー」 車いすレンタル事業がハンケイ5mショップでスタート

京都の中心エリア、四条烏丸にショップを構える「ハンケイ5m」にて、新たに車いすのレンタル事業がスタートします。この事業を担うのは、京都のバリアフリー観光を支えている株式会社サポートどれみが運営する京都バリアフリーツアーセンター。

代表取締役の中村敦美さんに、四条烏丸での新たな展開と、そこに込めた想いをお聞きました。

京都観光の「困った」を支える プロフェッショナル

株式会社サポートどれみは、2013年に中村さんが個人事業としてスタートした家事代行・介護保険外サービスが原点です。2018年に法人化し、拠点を烏丸九条へ移してからは、旅行者向けの車いすレンタルや介護ヘルパーの手配といった「バリアフリーツーリズム」の核となる事業を展開してきました。

中村さんがこの事業を始めたきっかけは、障害のある娘さんとの旅行経験でした。「旅行に行っても、結局家族が疲れて

帰ってくる。現地で、せめて入浴だけ、食事の時だけサポートしてくれる人がいたら……」。そんな切実な願いを形にしたサービスは、次第に「旅行そのものの相談」へと広がっていきます。

コロナ禍を経て、中村さんは「より多くの方を支えられるように」と国家資格を取得し、旅行業登録を完了。現在は、障害者や高齢者専門の旅行会社として、誰もが京都を楽しめる環境づくりを推進しています。

四条烏丸という「最高の立地」で さらに便利に

2025年11月、訪問看護や介護事業を手掛ける株式会社アドナースがサポートどれみの経営に参画し、子会社化・事業提携を行ったことで、活動の幅はさらに広がりました。その大きな一歩が、四条烏丸への拠点移動です。

「これまでの烏丸九条の事務所は、常駐スタッフが不在の時間もあり、完全予約制で運営していました。しかし、四条烏丸という利便性の高い場所で展開することで、より柔軟な対応が可能になります」と中村さんは語ります。

今回の新拠点では、「当日貸し出し」にも対応する予定です。

「慣れない石畳を歩いて足を痛めてしまった外国人観光客の方や、想像以上の移動距離にお疲れのシニアなど、車いすを日本まで持参するほどではないけれど、現地で『今すぐ借りたい』というニーズは非常に多いんです」。

単なるレンタルではない 「コンシェルジュ」の視点

用意される車いすは、ノーマルな自走・介助兼用車いす5台に加え、坂道の多い京都で重宝する「電動アシスト付き(介助式)」1台、自身で操作可能な「電動車いす」



1台の計7台。

「例えば、砂利道や急な坂道が多い清水寺へ行くなら、絶対に電動アシストをおすすめします。押す方の年齢や人数をお聞きして、最適な機種をおすすめることもあります」。

こうしたアドバイスができるのは、中村さんが自ら足を運び、観光地やホテルのバリアフリー状況を調査し続けてきた蓄積があるからこそ。アドナースとの連携により、介護タクシー・ヘルパー派遣など、シームレスなサポート体制がさらに整ったといいます。

「段差」を「心」でカバーする京都へ

中村さんは、京都のバリアフリーについて独自の視点を持っています。

「京都は文化財が多く、段差や砂利のオンパレードです。でも、すべてを平らにして手すりをつけるのが正解ではありません。歴史ある景観を守りながら共存するためには、『心のバリアフリー』が必要です。『段差はあるけれど、私たちが手伝います!』と言える温かさ。車いすが街にある風景を当たり前にし、自然に手を貸せる人を増やしていきたいんです」。

四条烏丸のショップを窓口に、車いすがもっと身近なツールになれば、京都の街はもっと優しくなれるはず。サポートどれみの新たな挑戦は、観光客だけでなく、京都に暮らす人々の意識も変えていく一歩になりそうです。

ハンケイ5m

京都市下京区烏丸通四条下ル からすま京都ホテル内1F(京都市営地下鉄「四条駅」南出口6番 徒歩1分)／OPEN 水・木・金 13時～18時／TEL. 080-8500-8236／運営:株式会社アドナース

※臨時休業は、Instagramでお知らせします。※オープンの日は、いつでも茶道体験が可能です。



ハンケイ5m Instagram

イベント情報は
こちらから



ハンケイ5m公式HP

レンタルの詳細・お店の
情報はこちらをチェック!



国立民族学博物館名誉教授
MIHO MUSEUM館長
熊倉 功夫さん

株式会社アドナース
代表取締役・看護師
鎌田 智広さん

茶の湯がつなぐ、「一視同仁」のこころ 茶道と福祉のこれからの可能性

り合いました。

——茶道史をはじめ日本文化や民芸史に大変造詣の深い熊倉先生をお招きして、対談の機会を頂いたご縁に感謝しております。熊倉先生は、実は鎌田さんの伯母にあたり、茶道の先生をされていた名倉ひろ子さんとお知り合いで、ご交友があったそうですね。

「ハンケイ5m」スペシャルアドバイザーの鎌田智広さんは、訪問看護・訪問介護を提供する株式会社アドナースの代表取締役。自身が看護師でもあり、福祉の現場で働く人と、サービスを受ける人みんながともに笑顔になれるようなケアを目指しています。その取り組みの一つが、利用者さんのお宅へ訪問するスタッフを対象とした「茶道研修」です。茶道裏千家準教授の田中賀鶴代さんを講師に迎え、茶道の心、おもてなしの気持ちを学んでいます。実は、訪問看護・介護のコミュニケーションに、茶道の心得がとても役立つそうです。そこで今回は、日本文化史・茶道史の研究で知られ、『日本人のこころの言葉 千利休』『茶の湯わび茶の心とかたち』の著者である国立民族学博物館名誉教授でMIHO MUSEUM館長の熊倉功夫さんと、鎌田さんによる特別対談を開催。障害の有無や立場を超えて、人と人を多様につなぐ茶の湯の神髄について語

鎌田…僕は今、京都で訪問看護・訪問介護のアドナースの仕事をしてい

ますが、実家は静岡で、茶の湯をやっていた伯母（名倉ひろ子）の家のすぐ近くなんです。子どもの頃はしょっちゅう遊びに行っていました。

僕たちアドナースが取り組んでいる訪問看護は、病気や障害がある方たちの自宅に伺って、生活のお手伝いや医療のサポートをする仕事です。「医療従事者として」とはいうものの、他人の家の中に入っていくので、「きちんとしたマナーを身につけたい」という思いで、改めて茶道に興味を持ちました。

そこで、茶道裏千家準教授で「和文文化おもてなし隊」という車いすユーザーが茶道を楽しむ団体の代表でもある田中賀鶴代さんを、知人に紹介していただいたんです。茶道を通して、茶の湯の精神や作法、おもてなしの心を身につけたいと、10年ほど前から接遇研修の一環として社員みん



なで茶道を学んでいます。

熊倉…訪問看護は人を支える大事なお仕事ですが、プライベートな空間に入っていく以上、それなりの心得がないと難しい部分もあるかと思っています。そこに茶道を取り入れるのはいいですね。今はみんな洋式になってしまったので、畳の作法が忘れられてしまっ



名倉ひろ子さんから譲り受け、アドナースの研修で使用している茶道具。
掛軸の筆者は大徳寺聚光院先住小野澤寛海師、読みは「瀧清風起る」。



います。

畳があるということは、座敷がある。座敷があるということは、そこに何かを飾るための棚や床の間がある。だから、客として座敷に入ったらまずは床の間の掛け物や、そこに飾られた花を拝見するわけです。そして、「今日の花は何ですか？」「この掛軸はどういうものですか？」と亭主に尋ねる。客に興味を持ってもらうと、亭主は嬉しいんですよ。それが、客から亭主に対する「もてなし」なんです。実は、「もてなし」は、亭主が客に対するだけではなく、客から亭主に対する「もてなし」もあります。それがないと、本当のお茶にはならないです。

鎌田…訪問看護では、利用者さんの部屋に入ってケアをします。相手のプライベートな領域に入って行って信頼関係を築くことは、簡単ではありません。

そんな時、お茶の教えが役に立っています。部屋に飾られた写真や置物に興味を持って、「これはいつの写真ですか？」と尋ねると、そこからコミュニケーションが始まります。相手に関心を持つこと、「もてなし」の心が、信頼関係を築く入口になります。

熊倉…人と人が直接向き合うと、ど

神は、人と直接関わるケアの仕事の根っこにつながっていると思います。

熊倉…日本語の「躰（しつけ）」という言葉は、すごく面白い言葉なんです。着物を眺めると、袖口や衿に躰糸が付いていますよね。でも実際に着る時には、必ず躰糸を抜き取ります。では、なぜ躰糸が付いているかというと、眺めたばかりの着物は縫い目がつかりと付いていないので、形が出来ていないからです。「躰ける」ということは、「形にはめ込む」ということです。

一旦は形にはめ込んで、使う時には抜く。そうすると、はめ込んでいた形が残っていて、それによって着物を着た時に美しく見えるのです。

人間も同じです。「躰」というのは、「形を強制し、押し付ける」ことなんです。作法を学ぶということは、形を押し付けられて、それが次第に自分の体の形になっていくということです。

今の若い人は、形にはめ込まれることを嫌うと言われます。でも一方で、何にでもマニュアルを求める傾向がある。形とマニュアルとの違いは、応用が利くか、利かないか。大事なものは、「応用の利く形」を自分の中に持つことです。その形が、人との関係を支えていくのだと思います。

うしても緊張が生じます。でも、その間に「モノ」を挟むことで、関係が楽になるんです。お菓子でも、思いつきの品でも、花でもいい。人と人との間に共通の対象があることで、人間関係が柔らかくなるんです。だから、お茶は単なる作法ではなく、人と人をつなぐ技術でもあるんですよ。

—双方のもてなし、お互いにお互いを思う気持ちをやりとりするというコミュニケーションは、訪問看護などケアの現場にも通じるものがありますね。

鎌田…伯母は、私が茶の湯の精神を大切にしながら福祉の仕事に携わっていることを、すごく喜んでくれています。だから、伯母が大切にしていた茶道具を、田中先生に見てもらい、譲ってもらったものもいくつかあります。現在、それは、アドナースの研修で使っています。中には、伯母の自筆のメモが添えられた品もあり、そういう思いまで含めて大切にしながら、田中先生には、若いスタッフたちに伝えてもらっています。

熊倉…素晴らしいことですね。名倉さんも喜ばれているでしょう。

鎌田…『ハンケイ5m』は、自分たちの身の回り、例えば半径5mといっ

茶道裏千家準教授、京都府文化観光大使 和文化おもてなし隊 代表 田中賀鶴代さん

あるテレビ局から「車椅子ユーザーと一緒に、茶の湯のおもてなしをしてほしい」という依頼があり、全国から集まった車いすユーザーの女性たちと茶道サークル「和文化おもてなし隊」を結成。車いすユーザーでも着用できる着物を着て、テーブルで楽しめる盆略点前をしています。興味があっても「着物を着たい」「お茶をしたい」と言い出せなかった人も、自信に満ちて、いざいざとおもてなしをされています。



株式会社アドナース 辰尾佳音さん

昨年開催された大阪・関西万博では、大勢の来場者の前で、「和文化おもてなし隊」のメンバーたちがステージ発表も経験しました。「ハンケイ5m」ショップの茶席は、全盲の方や難聴の方、海外の方も来られますが、「一座建立」の精神と創意工夫があれば、誰もが一緒にお茶を楽しめると改めて実感しています。



た極身近におられる、素敵な人たちを紹介するフリーマガジンです。数年前、活動に共感していただいた、からすま京都ホテルさんから、「一階スペースで何かやりませんか」と声をかけてもらいました。そこで、車いすの方も参加できる茶席を設けて、福祉のセレクトショップも始めました。

熊倉…今は車いすだけでなく、健康上の理由や高齢などで正座ができない方が増えています。広島のある茶道流派の家元は、以前に患った病気の影響で足が曲がらず、正座ができないうんです。でも、病氣から回復されて、今、非常に元氣に家元として活躍しておられます。正座ができない家元というのが、実際にいらっしゃる。つまり、茶道そのものが変化する時代に入っているんですね。

「視同仁」という言葉に象徴されるように、茶の湯は本来、多様な人を受け入れる文化です。多様性という意味では、茶道が変化していくのは大事なことです。

30年ほど前ですが、仕事で東ヨーロッパを回った時に、ブルガリアで高校生たちが歓迎茶会を開いてくれました。亭主は高校生の男の子で、立派なお点前に感心して見ていたら、右手の指が3本しかない。事故で指を失ったんだそうです。でも、彼の

点前は本当に素晴らしかった。後で彼に話を聞くと、「お茶を始めてから、人前で自分の手を見せることを躊躇しなくなった。自分を出すことを恐れる気持ちを克服できた」と言うんです。その言葉を聞いて、私は改めて「お茶には、さまざまな不自由から人を解放する力がある」と感じました。

鎌田…多様な人が、なにかに自信をもつ。茶道がそのきっかけになるのは嬉しいことです。

—茶道の心得は、福祉の現場はもちろん、人と人が関わる場面で、役立つことがありますね。

鎌田…以前、利用者さんに謝罪へ行かなければならない場面があったんです。お伺いしたお宅で、アドナースのスタッフが襖の開け方や立ち居振る舞いを、お茶で学んだ所作の通りにしたんだそうです。すると、怒っていた相手の方が「もういいよ」と言ってくれました。襖を開けて入ってきた姿を見て、気持ち伝わったんでしょうね。

「茶道研修をやっていたよかった」と思いました。

看護や介護の仕事は技術だけでなく、どのような気持ちで人と向き合うか、それが大切です。茶の湯の精



社会福祉法人成望館
サービス管理責任者・
相談支援専門員
四辻仁美さん

それぞれの美しさを重ねて、日々の暮らしを彩る

「まーぶる染」は「誰もがいきいきと暮らせる」社会の縮図

幾重にも合わさったカラフルな曲線が描き出す模様は、まるで宇宙に広がる銀河のようだ。作品のひとつひとつが、水面に色が広がる一瞬を捉えた唯一無二の存在。日本の伝統的な染色技法である「墨流し」(マーブリング)から生まれる模様は、どれひとつとして同じものもなく、見れば見るほど引き込まれる神秘的な魅力に満ちている。

1990年に共同作業所としてスタートした社会福祉法人成望館(京都市南区)は、長年、障害がある人たちの働く場として、さまざまな製品づくりに取り組んでいる。なかでも、成望館を代表する製品が墨流しの技法を用いた「まーぶる染」の雑貨たちだ。一筆箋や封筒などの文房具、シャツや靴下、スニーカーといった服飾製品、そして昨年度から始めた陶器製のダルマやネコ、フラワーポットの雑

貨シリーズ「A w a i M a r b l e K Y O T O」。日々の暮らしをさりげなく彩る、魅力的でおしゃれなアイテムを揃えている。

この染め物に取り組むきっかけは、'95年に発生した阪神淡路大震災だった。震災の影響で、それまで受注していた下請作業が減少。なにか安定した仕事を手にいれるため、オリジナル製品の制作を目指すことになった。そこから、施設職員と利用者で試行錯誤を繰り返して、成望館ならではの柔らかな色彩が特徴の「まーぶる染」作品が生まれた。

サービス管理責任者・相談支援専門員 四辻仁美さんはこう話す。「まーぶる染は、利用者の誰が染めても、それぞれに美しくユニークな模様ができていきます。誰か一人が作家のように作るのではなく、成望館がブランドとなってオリジナル製品が生まれるこ

とが、仕事を安定させると思います」。

四辻さんたち成望館の目指す障害福祉に共感した輪が広がり、まーぶる染をはじめ自主製品を販売する場も次第に増えている。2016年からは祇園祭・前祭の宵山期間中に、山伏山(京都市中京区室町通蛸薬師下ル)の協力を受けて、町会所に隣接する会場で出張販売を行っている。また、雑貨などのセレクトショップ「mumokuteki」が商品開発支援に加わり25年度から始めた「A w a i M a r b l e

K Y O T O」シリーズは、寺町通商店街にあるmumokuteki京都店や、新京極四条上ル花遊小路商店街内はあと・フレンズ・ストアでも販売している。

障害がある人たちが、自分の希望を成し遂げる、という思いを込めて名付けられた「成望館」。その理念を象徴する製品として、約30年にわたって取り組んできた「まーぶる染」は、誰もが能力を発揮して、自分らしく生きがいを感じる生活を送れることを表しているようだ。

担い手と原材料不足に悩む「祇園祭」の厄除けちまき 伝統文化と福祉のコラボで課題解決を目指す

京都の夏といえば、7月の一カ月間にわたって行われる「祇園祭」。17日の前祭、24日の後祭の2回に分けて営まれる華やかな山鉦巡行と勇壮な神輿渡御は、まさしく京都の夏の風物詩であり、毎年、多くの見物客を魅了している。京都三大祭りのひとつにも数えられる祇園祭の縁起物が「厄除けちまき」だ。実は近年、担い手の高齢化やちまきの材料となる稲わら不足の影響で、祇園祭の厄除けちまきの確保が困難になっている。そこで、京都の伝統文化と福祉が連携し、厄除けちまき作りの新たな担い手として挑戦しているのが、就労継続支援A型事業所「ユニルックス」だ。



ん。岡川さんと下川さんは、約20名の利用者とともに、6年前から厄除けちまき作りに取り組んでいる。ユニルックスの運営管理を担う下川さんは「新型コロナウイルスの時期に『密を避けて、厄除けちまきを作る場所が確保できずに困っている』という鉦町の方のお話を聞き、代表が『それならうちでやってみよう』と始めたのがきっかけでした」と話す。

当初は、でき上がったちまきに紙の装飾を取り付ける作業を、ユニルックスの利用者で行っていた。一方で、ちまきの材料である、稲わらの確保が年々困難になり、一部では外国産のちまきも流通してきた。

幼少から菊水鉦の囃子方を務める岡川さんはこう語る。「祇園祭は、1100年を超えるお祭です。京都の町衆が守り伝えてきた伝統と歴史がある。ちまき不足という課題解決のために、自分たちの手で、できることは何でもやってみようと思いました」。下川さんは、不足する稲わらを確保するため、米作りから始めることを決意する。

そこで、2024年から淡路島に田んぼを借り、岡川さんや下川さんをはじめユニルックスのメンバーが協力して、田植えから収穫までを自分たちで行った。ここで収穫されたものは、ちまきに使う稲わらとして大切に確保されている。それを巻く笹は信州から取り寄せ、昨年より、ちま



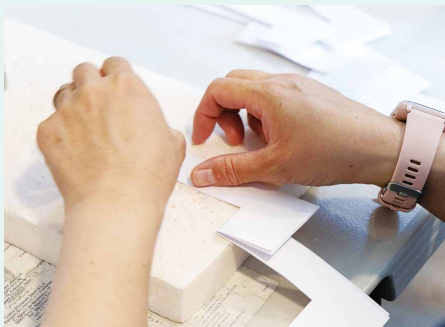
き作りに一から挑戦している。

「ゆっくりでもいいんです。どこよりも美しいちまきに仕上げたい。そうすれば、利用者さんの作業の質が高いことが理解され、注文が増えます」という下川さん。笹の節は真ん中に揃え、端の折り返しは角を立ててまっすぐに。下川さんが手作りした特製の型を使って、利用者それぞれが真剣にちまき作りに向き合っている。そのちまきは、本場に凛として美しい。ユニルックスが目指すのは、京都の伝統文化と就労支援が連携し、「ちまきの供給」と「利用者の仕事の安定」という、双方の課題が解決すること。これは、新しい文化の継承の形でもある。さらに、利用者がちまき作りの技術を身につければ、就労継続支援施設を定年退職した後、「職

人」として自活していくサポートにつながる可能性もある。

「65歳でユニルックスを定年退職した後の生活を、どう支えていくのが課題です。僕はみんなに『職人を目指そう』と伝えていきます。どこにも負けない、一番美しい厄除けちまきを作る技術を身に付けることができれば、定年後も自分のペースで内職として働くことができる。伝統文化を支えながら、より自分らしい生活を送ることもつながると考えています」と下川さんは熱弁する。

今年も、ユニルックスが育てた稲わらを使った厄除けちまき約2000本が、菊水鉦で授与される予定だ。京都の夏を彩る祇園祭。伝統の祭りの舞台裏で、ユニルックスの新たな挑戦は続く。



就労継続支援A型事業所 ユニルックス

京都市下京区小泉町110番地 TEL.075-468-1762

Recommended
Movie's

俊朗の映画話

年間100本映画を見る
俳優・福山俊朗の映画コラム

福山 俊朗

神戸大学在学中に劇団そとばこまちに入団、15年間に在籍しフリーに。舞台・テレビ・映画に多数出演。FMラジオのDJ、歌のお兄さん、映画監督などマルチに活躍中。

ろう者のアンヘラと、聴者の夫エクトルはとも仲の良い夫婦でした。2人の赤ちゃんが生まれるまでは。

と、こんな書き出しをすると身も蓋もありませんが、今まで自分に対してだけだったエクトルの優しさが

娘にも注がれるようになり、なんとも言えない気持ちになってしまいうア
ンヘラ。赤ちゃんの泣き声が聞こえ
ず、母乳も出にくいアンヘラは疎外
感、孤独感を深め、ついには献身的
に尽くしてくれているエクトルと衝
突してしまいます。ここまでは僕は

ンヘラに対して少し「わがまま」

な印象を持っていた。巨か聞えないことを鑑みて、もう少し夫や子供に向き合えるのではないかと。しかし、この映画にはそんなこちらの気持ちを見透かしたかのようには、後半に爆弾級の仕掛けが施されていきました。そのラスト15分で自分の想像力のなさを思い知らされることとなります。

普段マイノリティの人への理解、



幸せの、忘れもの。

2025 / スペイン
監督:エバ・リベルタ
出演:ミリアム・ガルロ
アルバーロ・セルバンテス
エレナ・イルエタ
© 2025. Distinto Films
SLU, Nexus Creafilms
SL, A Contracorriente
Films SL, Diverso Films
AIE

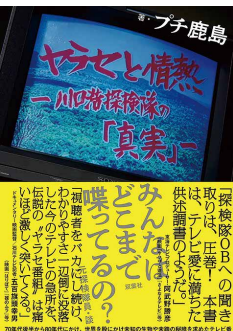
山下 賢二

出版社勤務や書店員などを経験し、2004年に「ガケ書房」を開業。2015年移転・改名し、本もお土産というコンセプトの店「ホホホ座浄土寺店」をオープン。

潔癖な風潮がはびこる昨今、テレビの「ヤラセ」は即刻、悪の烙印を押されることになる。そのクレーム感情には「騙しやがって」という信じていた人たちのある種、裏切られた思いがそこにある。しかし、信じやすい人というのは、昔の方がはるかに多い気がする。現代のクレームの特徴は、ほとんど信用していないのに「歪んだ正義感」で行われてい

当時、僕は小学生だったというところもあるが、川口浩探検隊シリーズのことは真正面から信じていた。今回紹介する文庫『ヤラセと情熱―水曜スペシャル川口浩探検隊の「真実」』は、番組の関係者たちにインタビューし、テレビのヤラセと演出の境目を再考するような内容の本だ。

ゴング、原始猿人バーゴン、巨大怪鳥ギャロンなど、その名前を並べるだけでなんだかワクワクしてしまうという人は、逆に、後日、これらを



ヤラセと情熱
—水曜スペシャル川口
浩探検隊の「真実」—
プチ鹿島 著
(双葉社)
1,980円(税込)

笑い話として懐かしむことができる人たちなのかもしれない。

放送されたその90%以上が、実はフェイクだったと暴露された。本当だったのは、訪れる国やそこうつつすら伝わっている風習、そして川口浩が本当に器用で探検好きだったということ。現地の伝説を拡大解釈して、怪物を創造し、隊員も掛け持ちしていたスタッフたち。皆、報道ではなく、エンタメを作っているという。うき氣に溢れた現場だったという。

船戸 一晴 (キャッチー船戸)

ゆう薬局の薬剤師、ラジオパーソナリティ、DJ。FMたんご：みゅ〜じっくはふえCatchy(水曜12時〜)。FMまいづる、Radio Mix Kyoto:Premium Kyoto(月曜16時〜)。

映画『Michael』の公開を機に、マイケル・ジャクソンの音楽があらためて聴き直されています。今回はその中でも、私がDJでよくプレイしている大好きなカバー、Patriciaによる「Black or White」を紹介させていただきます。

White」を紹介させていただきます。

te」は、肌の色や人種を超えて人は

強いメッセージを持った楽曲です。ただ、Pat axのカバーを聴くと、その言葉がさらに音楽そのものとして広がっていくように感じます。マドリッドを拠点とするPat axは、

ズ、ファンクを自在に混ぜ合わせる

White」では、マイケルのポツ
プなメロディが、複雑なリズムと熱
を帯びた演奏の中で、まったく新し
い身体感覚をまもっています。

このカバーの面白さは、「違いをなくす」のではなく、「違いが鳴り合っ



Patax Plays Michael

Patax
(YOUKALI MUSIC)

ている」ところ。白か黒か、正しいか間違いか、中心か周縁か。私たちはつい世界を分けて考えてしまいがちですが、この曲の中では、さまざまなルーツやリズムがぶつかり合いながら、ひとつのグルーヴを生み出している。多様性とは、きれいに整えることではなく、違いのまま一緒に揺れることなのかもしれません。

映画をきっかけにマイケルの名曲へ戻るなら、ぜひPatentのこのカバーにも触れてみてください。「Black or White」という言葉の先にある、もっとカラフルな景色が聴こえてくるはずです。

Recommended
entertainment

人形つかいパペの話

最小のキャパで
最高のエンタメを！
人形つかいパペの奮闘記。



人形つかいパペ(佐藤 譲)

京都大学卒業後、スタジオジブリに入社。雑誌編集職を経験し、日本テレビへ転職。映画プロデューサーとして活躍後、独立。現在、人形つかいとして、京都を拠点に活動。

生まれて初めて俳優オーディションに参加しました。シェイクスピアの戯曲『ハムレット』を、京都の小劇場「THEATRE9 KYOTO」で上演する企画です。人形劇を始めて、人前で演じる機会は増えたものの、主役はあくまで人形たち。私自身は俳優未経験のため、全てがドキドキの連続でした。

映画プロデューサー時代は、オーディションで「まだ見ぬ才能に出会おう側」だった私。まさか自分が審査される側になるとは夢にも思わず、当日までの準備も審査中も、味わう景色はどれも新鮮でした。合格が決まると、役という「他者の人生」が自分事になる喜びを実感しました。

『ハムレット』は、息子ハムレットによる義父への復讐譚です。物語の中盤、顔なじみの役者たちが劇中劇を繰り広げる重要なシーンがあるので、演出の村上太基さんから「人形劇を取り入れられないか」と相談を受け、一緒に作ることにになりました。



ロシアから始まった玉人形の手法を採り入れて演じました。

ハンケイ5^m

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

vol.18 発行にあたり

「心のバリアフリー」が広がると
やさしい街になると思います。
まずは自分から
「お手伝いしましょうか」の一言を。
小倉寛朗貴(編集)

一つひとつ
積み重ねていたら、
思いもよらなかった
ところに辿り着く。
久野泰輝(編集)

海外の人たちとの交流の中で
よく触れる、ジェンダーレスの世界。
その自由で優しい世界にすることが、
こんなにも心地いいなんて。
田代佳世(配達)

「応用の利く形」を持つことは、
日々のさまざまな場面を
しなやかに越えていくための、
魔法のようなものだと感じました。
福島明彦(編集)

ゆっくりでいい、
どこより美しく仕上げたい。
とても素敵な言葉だと
感じました。
谷口晋作(編集)

歴史ある祭が福祉活動と結びつき、
温かく丁寧に継承されることに、
驚きと希望を感じた。
円城新子(編集)

「自立」とは何にも依存しないのではなく、
実はたくさんのものに依存しているのに
「私は何にも依存していない」と感じられる状態のこと。
熊谷晋一郎さんの、この言葉が好きです。
呉玲奈(編集)

それがどれほど違った形に見えたとしても、
全ての創造の根っには希望がある
龍太郎(ライター)

ネット上で袖すり合った人が、
10代からの推しバンドを教えてくれた。
その音楽と世界観がとても美しくて、
r5mが電波のかなたへ拡がってゆく。
森 華(デザイン)

素敵な色彩の「まーぶる染」は
色だけでなく成望館さんのやさしさも
混ざり合い完成しているのが素敵！
北原靖浩(デザイン)

祇園祭鉾町取材時に、粽作りの担い手、
材料の不足を嘆く声を多く聞いた。
今号でまさに救世主の登場！と感激した。
中山みゆき(編集)

サッカーワールドカップは
4年に1回。なんか4年が
あつという間になってきた。
鎌田智広(スペシャルアドバイザー)

アートとワークの関連性。
この結びつきは
楽しいしかない！
辻正美(カメラ)

一色に混ざらず、個々の線となり
美しい模様を作り出す。まーぶる染は、
まさに多様性の象徴のように感じました。
鈴木穂乃(編集)

ハンケイ5^m

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

vol.18

2026年7月16日発行

発行 株式会社アドナース
京都市西京区大原野西境谷町2丁目14-10
075-754-6174
株式会社ユニオン・エー
京都市左京区北白川西平井町22-2
075-724-0410

企画・制作 株式会社ユニオン・エー

Staff 円城新子
呉玲奈
中山みゆき 鈴木穂乃 久野泰輝
福島明彦 田代佳世
谷口晋作 小倉寛朗貴
龍太郎
辻正美
北原靖浩
もりはなぐみ

スペシャルアドバイザー 鎌田智広

RECOMMENDED CINEMA

京都シネマおすすめ映画



8/7(金)公開
バグダッド・メッシ
片足のサッカー少年
Baghdad Messi | 2023 |
イラク、他 | 84分
監督: サヒム・オマール・カリファ
出演: アフマド・モハメド・アブドラ

© A Team Productions | Column Film |
10.80 Films | Macgyver
https://baghdad-messi.jp/

2009年、イラク戦争下のバグダッドで、メッシに憧れサッカーボールを日々追いかける11歳の少年ハムディは、爆撃に巻き込まれ、目覚めたときには片足を失っていた……。5歳のときにテロによって片足と父親を失った過去を持つ少年アフマドが主人公を演じ、希望さえも飲み込もうとする非情な現実のなかで、人間が希望を失わずに生き抜くことの真の意味を我々に問いかける。

上映情報のご確認はこちら
京都シネマ www.kyotocinema.jp
📍京都市下京区烏丸通四条下ル西側 COCON烏丸3F ☎075-353-4723

アップリンク京都おすすめ映画



7/31(金)公開
ヒトラーの毒見役
2025 | イタリア、他 | 123分
監督: シルヴィオ・ソルディーニ
出演: エリーザ・シュロット、
マックス・リーメルト

配給: アンブラッド

1943年の第二次世界大戦末期。ベルリンの爆撃を逃れ、ポーランドの田舎町で戦地にいる夫の帰りを待つローザ。その場所は“狼の巣”と呼ばれる、ヒトラーが総統大本営を置いていた森の近くだった。ある日、彼女はヒトラーが食事する前に、毒見する任務を命じられる。監視のもとで、銃を突き付けられながら食事をする。ヒトラーが食す最高の料理を、死と隣り合わせの最悪な状況で試食する苦悩の日々。戦局が混迷を極める中、彼女たちの運命は一。

上映情報のご確認はこちら
アップリンク京都 <https://kyoto.uplink.co.jp/>
📍京都市中京区烏丸通姉小路下ル場之町586-2 新風館 地下1階 ☎075-600-7890

PICK UP NEWS

TOPIC 1 爪先からあなたのすまいるを応援

ネイルサロン「すまいるたいむ」OPEN!

からすま京都ホテル入口のショップ「ハンケイ5m」で予約不要のネイルサロン「すまいるたいむ」がOPEN！
店名は、笑顔になれる時間を過ごしてほしいという思いから名付けられました。ネイルを担当するのは、nicoJHWN認定スクール京都烏丸校の認定講師である田端重美先生と生徒さんです。田端先生は、普段は福祉ネイリストとして老人ホームなどで利用者さんにネイルやハンドケアを提供したり、講師として指導したりしています。
ハンドマッサージ、お湯で落ちる簡単ネイル、ピールオフジェルなどが可能です。宴会前やご予約前の隙間時間には是非お試しください！



7月ネイルサロン情報

祇園祭の7月15日(水)午後、16日(木)はフットネイルも開催します。
浴衣姿で足先・指先までオシャレしてお祭りを楽しみましょう♪



ご予約も可能です！ ハンケイ5mのインスタグラムの営業日カレンダーをご確認いただき、ネイルサロンOPEN日に予約希望時間をDMLしてください。



TOPIC 2 ハンケイ5mのラジオ番組

「あつまれ！ ハンケイ5m」放送中!

京都のコミュニティFM・京都三条カフェラジオにて毎週月曜日11時から放送している「あつまれ！ ハンケイ5m」。
ハンケイ5mに関わる人をゲストに招き、楽しいトークを繰り広げています。6月には、意匠京念珠板倉代表取締役 辰尾由佳さんをゲストに招き、「ハンケイ5m」で定期的開催するワークショップについてお話していただきました！ 7月、8月もさまざまなゲストが出演予定！ ぜひご視聴ください。

「あつまれ！ ハンケイ5m」

【放送日時】毎週月曜 11:00~11:06 / FM79.7MHz 京都三条ラジオカフェ



過去の放送は
京都三条ラジオカフェの
ホームページから

無料ラジオアプリ
「Listen Radio (リスラジ)」で、
聴取可能です！

TOPIC 3 art space co-jinで開催中!

大柳憲一 個展

「Countless Count / 数えきれないほどの数」

今号の表紙アートに掲載している大柳憲一さんの個展が、art space co-jinで5月27日(水)から8月16日(日)まで開催中。数字をモチーフにした120点を超える作品が展示されています。



【日程】2026年5月27日(水)~
8月16日(日) 10:00-18:00
休廊日: 月曜・火曜 ※臨時休廊 8月12日(水)
【会場】art space co-jin
〒602-0853 京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール 1階

アドナースpresents 私が半径5mで見つけた

おすすめスイーツ

音楽療法士 山本 由香

今回ご紹介するのは、名古屋土産として人気の、花桔梗の「あんトースト最中」です。香ばしくサクサクの最中に、コクのある粒あんバターをたっぷり塗っていただく、贅沢なご褒美スイーツ。ひと口食べれば、まるで名古屋の喫茶店でモーニングを楽しんでいるような気分になります。あんバター好きにはたまらない「あんトースト最中」、ぜひ味わってみてください。





ADNURSE



union.a